

文スポ・土木・警察常任委員会 県外行政調査

1 調査日 令和7年12月22日（月）～24日（水）

2 調査の概要

12月22日（月）

（1）漫湖公園（沖縄県那覇市）

漫湖公園は、国の鳥獣保護区特別保護地区に指定されている漫湖に面した総合公園であり、安心・安全な魅力あふれる交流拠点の実現を目指して、「オープンカフェを中心とした人の集う公園」、「誰もが楽しめる運動環境を持つ公園」、「自然環境を活かした安全安心な公園」のコンセプトで取組を進めている。

滋賀県では、びわ湖を中心として滋賀県全体が水と緑と人でつながる一つの大きな公園「T H E シガパーク」の実現を目指し、滋賀の公園の魅力向上を図っており、そのためには民間の活力やノウハウを活用する他、近接する民間事業者や団体、近隣住民やボランティアの力を借りて取組を進める必要がある。

については、今後の委員会審議の参考とするため、同公園の Park-PFI 事業について調査を行った。



12月23日（火）

（2）豊見城市議会（沖縄県豊見城市）

豊見城市的自動運転バスを活用した実証運行は、国土交通省の「地域公共交通確保維持改善事業」に採択され、昨年度に引き続き、実証運行を実施しており、今年度の実証運行では、既存路線バスである豊見城市内一周線の一部区間で自動運転車両を導入し、道路運送車両法のレベル4の認可取得に向けたデータ蓄積を目指している。

滋賀県は、社会情勢の変化に対応した持続可能な交通ネットワークの維持・活性化のため、滋賀地域交通ビジョンを策定し、その取組の1つとして、自動運転バスの実用化に向けた取組を行っている。

本委員会では、「社会・防災インフラの整備と維持管理について」を重点審議事項としており、今後の委員会審議の参考とするため、同市の地域公共交通の活性化に向けた取組と自動運転バスを活用した実証運行について調査を行った。



(3) 首里城公園（沖縄県那覇市）

令和元年に発生した火災により正殿等が全焼した首里城公園は、現在も再建に取り組んでおり、正殿等復元を中心とした「首里城復元」、復元の過程を一般へ公開・発信する「段階的公開」、それらの実施を通じた「地域振興・観光振興への貢献」の3本柱で世界文化遺産の保存・整備・活性化を図っている。また、正殿復元工事や広福門漆塗替え作業の現場に伝統技術を学ぶ大学生等を招き、若手技術者との意見交換や実際の作業を体験する機会を提供するなど、技術継承・人材育成に取り組んでいる。

滋賀県は、文化財を次世代に継承していくため、比叡山延暦寺の根本中堂において大規模改修工事が行われているが、少子化、過疎化、人口減少等社会状況の変化により、文化財の保存継承が危機的な状況となっていることから、新たな人材の確保や定着に向けた取組が求められている。

本委員会では、「滋賀の美の魅力発信、文化財保護および施設の機能強化・活性化について」を重点審議事項としており、今後の委員会審議の参考とするため、同公園の世界文化遺産の保存、整備、活性化に向けた取組について調査を行った。



(4) 沖縄県議会（沖縄県那覇市）

沖縄県は、スポーツと様々な産業との掛け合わせにより、沖縄の価値を高めるため、スポーツ資源を有効に活用し新たなスポーツビジネスモデルを創出している。また、モデル事業に取り組む事業者を募集し、事業の企画・開発等の立ち上げの支援や事業実施費用の補助を行うなど、スポーツを通じた地域・経済の活性化を図っている。

滋賀県では、今年度、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」が開催されたが、今後は両大会後のレガシーを継承していくことが重要である。

本委員会では、「スポーツの更なる振興に向けた活動の推進と環境の整備について」を重点審議事項としており、今後の委員会審議の参考とするため、同県のスポーツアイランド沖縄の形成に向けた取組について調査を行った。



12月24日（水）

（5）沖縄県警察本部（沖縄県那覇市）

沖縄県では、匿名・流動型犯罪グループの活動とみられる詐欺被害などが急増しており、摘発と犯行を抑止するため、沖縄県警は令和6年度に総合対策プロジェクトチームを設置した。また、被害防止対策を強化するため、民間企業と協定を締結するなど、広報活動に取り組んでいる。

滋賀県では、SNS型投資・ロマンス詐欺被害が急増するとともに、特殊詐欺の被害額が増加していることから、滋賀県警は令和6年度にトクリュウ・闇バイト・詐欺・強盗緊急対策プランを策定し、犯罪から県民を守るための対策を進めている。

本委員会では、「犯罪の発生を抑止する社会づくりと県民の命を守るための基盤の整備について」を重点審議事項としており、今後の委員会審議の参考とするため、同県のトクリュウ対策の現状について調査を行った。

